

# ワールド・カフェの世界によろこそ！

## ワールド・カフェの準備と手順マニュアル

西村 勇也 著

作成：2009年8月

改定：2010年2月

連絡先 e-mail：[nishimura@dialog-bar.ne.jp](mailto:nishimura@dialog-bar.ne.jp)

phone：090-8232-7572

ブログ：<http://positivelearning.seesaa.net/>

引用・転載の際は、Credit と連絡先の明記をお願いします。尚、文責は全て西村勇也にあります。

## 「ワールド・カフェの世界によろこそ！」

### < 目次 >

はじめに	P 4
事前準備	P 4
1. ワールド・カフェの実施がふさわしいか検討する	P 4
2. 目的を明確にする	P 6
3. コンテキストの探求	P 6
4. 問いの候補を用意する	P 6
5. 会場の準備	P 8
6. 備品の準備	P 8
7. インビテーションカード（招待状）の送付	P 9
当日の準備と流れ	P 9
1. 会場の準備	P 10
2. テーブルデザイン	P 10
3. 全体の流れ	P 10
おわりに	P 19
著者紹介	P 20

## ワールド・カフェの世界によろこそ！

ワールド・カフェは、Juanita Brown（アニータ・ブラウン）によって生み出された、対話のプロセスです。

ワールド・カフェは、組織変革、まちづくり、教育、コミュニティビルディング、学びの場など様々な場面で活用されています。

・大学の授業で行うワールド・カフェの様子

<http://positivelearning.seesaa.net/article/134037452.html>

・まちづくりワールド・カフェ（イマジン横浜）

<http://imagine-yokohama.jp/worldcafe.html>

・学びと対話の場（ダイアログ Bar）

<http://positivelearning.seesaa.net/article/139697760.html>

また、ワールド・カフェはそれそのものだけで運用されるだけでなく、様々なプログラムと合わせる事でより大きな力を発揮します。

・カンファレンス型ワークショップの中に組み込んだ例（未来を創るワークショップ）

<http://positivelearning.seesaa.net/article/112872159.html>

・ワークショップの一部に組み込まれている例（Art of Hosting）

<http://positivelearning.seesaa.net/article/139905526.html>

Art of Hosting : <http://www.artofhosting.org/home/>

ワールド・カフェは、基本となるプログラム（とても簡単なプログラムです！）がありますが、その本質はアニータ・ブラウンの全てをつなぎ合わせる大きな在り方（being）に象徴されています。ワールド・カフェは、1つの選択です。あなたが生み出したい世界、実現したい未来に向けて「場を設け」「対話を促す」ための新しい選択の可能性を与えてくれるでしょう！

ここでは、ワールド・カフェを初めて実施する方、特に、ワールド・カフェについて耳にしたり体験した後に、「自分でもやってみたい！」と感じた方に向けて、ワールド・カフェの準備と進め方についての基本的な考え方を示しています。

もし、まだワールド・カフェを実際に体験した事がない人は、ぜひ、機会を見つけて参加してみてください！今や、ワールド・カフェを体験出来る場は信じられないくらい多くなっています。既に、体験したことがある人は、様々なワ

ールド・カフェに触れてみてください。そして、自分が実現したい「場」がどのようなものか、イメージを膨らませてみてください。

あなたの実現したい未来にとって、ワールド・カフェはどのような力を貸してくれるのでしょうか？

全ては、そこから始まります。

## はじめに

この文章では、ワールド・カフェの準備と実施に関する手順を示します。まず、事前準備として、ワールド・カフェのファシリテーターが考えるべきこと、準備するものについて順を追って解説し、その後、実施の際の手順として、開始前から開始後日まで概要を記します。これらの内容の中で、特に、ファシリテーターが考えるべきことに注意を向けてもらいたいと思います。対話の場において、ファシリテーターは、参加者と相互関係にあり、共に場を創る存在です。そのため、質の高い対話のプロセスを生み出すために、会場、備品、プログラムなどの客観的な準備以上に、ファシリテーターの態度、考え方の準備が重要な鍵となります。なお、ここに示す内容は、私の経験を元に築いた一例です。ワールド・カフェの特徴は、創造性に応じて自由に組み立てられるところにあります。本章の内容を一つの型として参考に、ぜひ、あなた独自のワールド・カフェ、または対話の場を生み出してみてください。

Have fun!!

## 事前準備

### 1. ワールド・カフェの実施がふさわしいか検討する

ワールド・カフェを始める前に、最初に「今回の機会にワールド・カフェを行うことが適切であるか」を考えてください。ワールド・カフェは非常に応用範囲が広く、活用できる場面は数多くありますが、全ての機会に対して反射的にワールド・カフェを行うことは、多くの人が集まる貴重な機会（おそらく、多大な労力をかけて）を質の低い環境にしてしまう可能性があります。

特に、以下のような条件の場合、ワールド・カフェの実施を再度検討する必要があると考えます。

#### A. 全体で2時間未満の時間しか用意出来ない

ワールド・カフェの1ラウンドに必要な時間は25分 - 30分です。もし、1つのラウンドが25分未満なら、参加者が時間不足と感じる可能性は高いでしょう。

また、ワールド・カフェでは、「3ラウンド+全体会議」が最も基本的な形で、少なくとも2ラウンドの実施が好ましいです。もちろん、他のプログラムと組み合わせ、ワールド・カフェの形式によって1ラウンドもしくは25分未満のワールド・カフェを行うことは可能です。しかし、ワールド・カフェを中心に据えるのであれば、少なくとも2ラウンド以上、各25分以上の時間を準備

する必要があります。前後の準備や終わった後の自然な会話の時間の確保も考慮し、2時間以上の時間を確保する必要があります。

特に、初めての参加者には、参加によってワールド・カフェに対する決まった捉え方が生まれるため、初めての参加者が多い場合は、出来る限り基本的な形式を踏襲することが好ましいと考えます。まずは、適切な時間が確保できるかを考えてみてください。

### **B．既に答えが決まっている**

ワールド・カフェは、多くの知恵とアイデアを生み出してくれます。しかし、それらのアイデアが全て無視されることが事前に決まっていたらどうでしょう？ワールド・カフェの対話から生まれた知恵やアイデア、それらが実行されるかどうかは自由な決定に任されます。一方で、事前にそれらが無視されることが決まっているなら、参加者は必要のないことのために時間と創造性を費やしたことになります。もし、参加者が自分たちの意思が無視されたことを知ったらどう感じるでしょう？（往々にして、必ず知られることになります）そうした経験が無力感となるまでにそう長い時間はかかりません。

本来、勇気と行動を生み出すワールド・カフェの機会が、無力感を生み出す機会になることは大きな損失です。人は、一度、無力感を感じたものに対して再度取り組むことは非常に難しくなります。もし、今回のテーマが既に決まった答えがあるのであれば、焦らず次の適切な機会を待ってワールド・カフェの実施を行うことが望ましいでしょう。

### **C．参加者の人数が12名未満**

ワールド・カフェでは、1つのテーブルに4 - 5名の参加者が座ります。3名ではやや多様性と寛容性に欠け、6名以上では参加の質が低くなる可能性が高いです。また、ワールド・カフェでは、ラウンドごとにテーブルに着くメンバーを入れ替えます。そのため、通常3ラウンドのワールド・カフェを行うためには最低12名のメンバー（4名×3）が参加していることが望ましいです。もし、参加者が12名未満の場合は、他の対話の手法（例えば、1つの円で行うダイアログ）を使うことが考えられます。一方で、ワールド・カフェには、人数の上限が存在しません。より多くの人数が参加することで、多様性と創造性が高められ、ワールド・カフェの特徴を最大限に活かすことができるでしょう。

### **D．誰もワールド・カフェによる対話が重要だと思っていない**

誰もが（ファシリテーターを含む）ワールド・カフェに対して「本当にこんなやり方でうまくいくのか」、「いったいなぜこんなものに時間を費やさないといけないのか」と感じているなら、単に時間と資源が費やされるだけでなく、ワールド・カフェに対するネガティブな印象を持って終わることになるでしょう。

このような状況は、外部からの介入（コンサルタントやステークホルダー）やその場にはいない第三者（経営者、為政者、その場に現れない決定者）からのラ

ンク（権力）を使った一方的な指示により、実施された場合に起こることが多いです。

特に、場の設定に関わるものが、ワールド・カフェによる対話を重要でないと感じている場合、参加者の意思に関わらず、集まる前にネガティブなメッセージを受け取ることとなります。また、ファシリテーターが（無意識にでも）、ワールド・カフェによる対話に対して懐疑的であるなら、形だけは型通りだが、魂が入っていない抜け殻のようなワールド・カフェになるでしょう。なぜ、ワールド・カフェを行うのかについて、ファシリテーター自身の内省が成功のための重要な鍵となります。

以上の確認を行った後に、ワールド・カフェの実施の準備に入ります。

## 2. 目的を明確にする

「いったい何のために場を設けるのか？」「場を設けてどのようなことが起こって欲しいのか？」「場を設けることにどのような意味があるのか？」

ファシリテーターは、これらの疑問を明確にする必要があります。もし、ファシリテーターが1人で準備を進めるなら、自問自答による深い内省が必要です。グループで準備を進めているなら、グループによる対話の時間を設け、問いに対する探求を行うと良いでしょう。それらの深い対話は、ワールド・カフェの中心を貫く魂を形成します。ファシリテーターが、ワールド・カフェを行う目的を明確にすることは、ファシリテーター自身の心からの参加を形成することとなります。

## 3. コンテキストの探求

コンテキストとは、文脈であり、意図です。意図は、ファシリテーターだけでなく参加者にもあることを忘れてはなりません。ファシリテーターの意図は、目的と共に明らかになりますが、参加者はそれぞれが異なる意図を持って参加しています。それらの意図が、どこからどこへ向かおうとしているのか、ファシリテーターはその流れについて理解を深めておく必要があります。そのためには、参加者の属性や期待、置かれている状況、その場に流れている雰囲気を知る必要があります。つまり、コンテキストの探求については事前準備であるとともに、当日にファシリテーターが行うことでもあります。コンテキストは、常に流れ続ける川のようなものです。また、ファシリテーター自身の意図も状況によって左右されることを忘れてはなりません。優秀なファシリテーターに求められる一つのスキルは、あらゆる瞬間に自分自身に対して明晰さを持っていることです。

## 4. 問いの候補を用意する

一般的に、ワールド・カフェにおいて、問いの準備が最も重要だと思われています。確かに、問いは、ワールド・カフェの対話のプロセスを促進するために

大きな力を発揮します。しかし、問いの項目が4番目であることを忘れないでください。問いは、目的とコンテキストから生まれます。どんなに良い問いであっても、目的とコンテキストから外れているなら、そこで生まれるアイデアや知恵が現実の場に反映される可能性はとても低いでしょう。逆に、どんなにシンプルなありふれた質問（例えば「今、何を感じていますか」）であっても、目的とコンテキストに沿っていれば、深い探求と創造的なアイデアによる実践が生まれます。そのため、事前準備の段階では、問いは候補を用意するに過ぎない（コンテキストは当日も変化し続ける）ことを、ファシリテーターは常に頭の隅においておく必要があります。

#### < 効果的な問いの特徴 >

- ・ オープン・クエスションである（YES・NOでは答えられない）
- ・ 知識による解決が出来ない（知っていれば分かる類のものではない）
- ・ テーマに対する権威者が参加者の中に存在しない（権力によって答えが決まらない）
- ・ 自らに問いかけられるテーマである（主体的に参加できる）
- ・ グループで探求できるテーマである（個人的な問題ではない）
- ・ テーマに対してニュートラル（中立）である（一方的な予定調和が存在しない）
- ・ 個人の経験や感情、アイデアを尊重することができる（論理的に解決できない）
- ・ 目的とコンテキストに沿っている（問いだけが分断した存在になっていない）

質の高い問いは、参加者に対して普段気づいていない考えやアイデアを喚起します。問いには、創造性を引き出す力があります。「参加者が主体的に参加し、自らを振り返りながら、潜在的に備わっているが発揮されていなかった考えやアイデアを引き出すには、どのように問いかけるのがよいでしょう？」この質問にこたえられない問いは、参加者のコンテキストから外れている可能性があります。さらに前後の時間とのつながりと、グループのメンバーが同時に取り扱うことが出来るかどうかを考えることで、適切な問いが見つかるでしょう。

#### ・ 言葉の力

問いを考える際に、もう1つ重要なことは、どの「言葉」を使うかです。言葉にはそれぞれ意味があります。また、言葉と言葉のつながりによって新たに意味が生まれます。例えば、「あなたは、今、何を考えていますか」と「あなたが今考えていることは、何ですか」では、同じことを問いかけているようで、違うインパクトを持っていることに気付くでしょう。前者は、「今」に焦点が当たり、後者は、「何」に焦点が当たっています。同様に、「あなたは、今、何を考えていますか」と「今、何を考えていますか」「今、どう考えていますか」ではさらに意味が異なります。

問いを考える際に参考になるのが、ナラティブセラピーとAI(Appreciative Inquiry)の考え方です。この2つの考え方は、社会構成主義をベースにしています。下記は、それぞれを知るための参考文献です。問いについて、より深く考えてみたい時に参考にしてみてください。

「ポジティブ・チェンジ 主体性と組織力を高めるAI」ダイアナ・ホイットニー、アマンダ・トロステンブルーム著（ヒューマンバリュー出版）

「物語としての心理療法 ナラティブセラピーの魅力」ジョン・マクレオッド著（誠信書房）

## 5. 会場の準備

ワールド・カフェにとって、空間の準備は重要な要素です。ファシリテーターは、参加者が居て「心地よい」と感じるような空間を準備する必要があります。「心地よい」という感覚はもてなしの感覚につながります。良い場を用意することが出来れば、自然と参加者に主体的な参加を促すことが出来ると共に、創造的な雰囲気を生み出すことが出来るでしょう。

### <心地よさを感じる空間の特徴>

- ・ 自然を感じることが出来る
- ・ 外の空間とのつながりを感じる
- ・ 明るい雰囲気を備えている（明るさ、色調）
- ・ 1人ひとりに対して十分な広さ（広がり、高さ、テーブル、テーブル間）がある
- ・ Welcomeボードや挨拶などによって迎えられる
- ・ 自由に出入りすることが出来る
- ・ 食事や飲み物が用意されている
- ・ 荷物やコートを安全に置く場所がある
- ・ リラックスできる音楽が流れている

上記の特徴に注意しながら、まずはあなた自身が「気持ちいい!」と感じる空間を探してみてください。

## 6. 備品の準備

以下は、ワールドカフェを実施する際に用意する備品のリストです。ワールドカフェは、プログラム全体で有機的にデザインされています。そのため、空間の設定から道具の1つ1つまで、それぞれ素晴らしい対話を生み出すための力を備えています。トーキング・オブジェクトを用意しないことや、逆に机の上に様々な道具を置くこともあります。まずは、ワールド・カフェの基本スタイルを試してみてください!

### <用意する備品>

#### テーブルに置くもの



- ・ トーキング・オブジェクト×1個×テーブル数分（手の中に納まる小物  
木や石など温かみのある自然の物が望ましい）
- ・ 模造紙×1～2枚×テーブル数分（テーブルクロスのようにテーブルを覆  
うことができる大きな紙　もちろん、テーブルクロスに直接書き込める  
ならぜひテーブルクロスで！）
- ・ カラーペン×1セット×テーブル数分（10色入り程度が好ましい。）

#### 会場内に必要なもの

- ・ 食事、軽食、飲み物などを置くサイドテーブル
- ・ 人数分のいす
- ・ グループ分の4 - 5人用のテーブル
- ・ カフェのエチケット（内容については後述）が書かれたもの

#### その他、場合によって役立つもの

- ・ ホワイトボード、黒板、フリップチャート、もしくは模造紙（壁に貼る）
- ・ プロジェクター、ノートPC
- ・ マイク
- ・ CDまたはテープ等用の音響設備
- ・ バックグラウンドミュージックの入ったCDまたはテープ等
- ・ ポストイット、はがき大のカード

### 7. インビテーションカード（招待状）の送付

参加者にとって、どのような案内によって参加が促されるかは、参加の意欲を左右する大きな要素になります。結婚式やパーティーのインビテーションカード（招待状）は、受け取った者に対して喜びと安心感、楽しみへの期待を生み出してくれます。事務的な案内に添えてインビテーションカードを送ることで、参加者に対して事前に力を与えることが出来るでしょう。もし、事前に参加者が分かるなら、郵送、E-mail、その他の方法によってインビテーションカードを送ってみましょう。特に、E-mailを使えば、インビテーションカードの送付はそれほど多くの手間とコストをかけることなく可能になるでしょう。

#### 当日の準備と流れ

ファシリテーターが、当日、最初に行くことは、会場とテーブルの準備です。ホスピタリティを感じる空間を生み出すことは、ファシリテーターにとって何より大事な役割です。

以前、一度、あるワールド・カフェで開場時間に間に合わず、到着が遅れてしまったことがあります。その日のワールド・カフェでは、ある1人の参加者が参加に対して大きな抵抗を示していました（「こんなものに何の意味があるんだ！」と）。よくよく聞いてみると、彼が会場に来た時点で、何の準備も行われていないことに対して強い不信感とホスピタリティの不在を感じていたことが分かりました。全ての人が、必ず同じ不満を感じるとは限りませんが、1人

でもそうしたことを心から感じているなら（さらに公に発言されるなら）、まずは会場全体の隠れた声が現れていると考えるべきです。

ファシリテーターは、ワールド・カフェの運営だけでなく、事前準備、会場準備の時点から、ワールド・カフェの精神を体現することが求められます。

### 1. 会場の準備

- ・ WELCOME ボード、案内、受付の設置
- ・ サイドテーブルと食事、軽食、飲み物の設置
- ・ 机といすの設置（特に、テーブル間に移動の際のスペースが十分あるかどうか確認する）
- ・ （PC、プロジェクター、音響の設置とリハーサル）

### 2. テーブルデザイン

各テーブルに以下のものを人数分用意する。

- ・ トーキング・オブジェクト×1個（テーブルの中央に置く）
- ・ 模造紙×1～2枚（テーブルクロスのようにテーブルを覆う）
- ・ カラーペン×1セット（テーブルの中央に置く）

テーブルの上には、必要以上のものを置かないように注意しましょう。テーブルの上のものが増えると、その分、模造紙のスペースが狭くなってしまいます。また、背の高い花瓶やグラスは、互いの顔を見えにくくする上、落として割ってしまうんじゃないだろうかという心配を生み出し、模造紙への落書きを消極的にしてしまうことがあります。そうした不安が生まれる事は出来る限り避けたいものです。

### 3. 全体の流れ

以下では、ワールド・カフェの手順とファシリテーターが参加者に提示する説明をワールド・カフェの進行に沿って紹介します。

#### A. ワールド・カフェの説明

最初に、ファシリテーターは、参加者に対してワールド・カフェの概要と全体の流れ、用意された備品の意味、カフェのエチケットについて説明する必要があります。

#### ・ ワールド・カフェの概要

ワールド・カフェは、「会議室で行われている会話ではなく、カフェのような創造的でオープンな場で行われている対話を通じて知恵とアイデアを生み出す」というコンセプトを持った、“対話のプロセス”です。ワールド・カフェは、アニータ・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏の創造的なアイデアによって1995年に生み出されました。以来、欧米に限らず世界中の様々な企業、組織、コミュニティで、組織の活性化やコミュニティの形成、創造的な会議、また地域社会の活性化や都市開発の分野

で活用されています。

ここでは、カフェのコンセプトを伝えるだけで良いでしょう。詳しい説明を求められたときに、より詳細な内容を紹介します。

ワールド・カフェは、オープンなコモン（共有）リソースとして、世界中で活用されています。これは、アニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスが、彼らの知見を公開してくれているおかげです。ワールド・カフェは誰でも（ロイヤリティーを払わずに）使う事が出来ます。一方で、オリジナルを開発したアニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスへの感謝と尊敬の気持ちは忘れずに示したいものです。

#### ・ 全体の流れ

ワールド・カフェは、全部で3つのラウンドに全体会議を加えた4つのパートから構成されます。1つのラウンドは、25 - 30分程度です。3つのラウンドでは、各テーブル4 - 5名で席に着き、ファシリテーターから問いとして提示される「テーマ」を対話の扉として話し合いを行います。

ワールド・カフェでは、1ラウンド目から2ラウンド目、2ラウンド目から3ラウンド目へと、ラウンドが進むたびにメンバーの入れ替えを行います（テーブルチェンジの方法については、実際にラウンドを変える際に説明します）。また、3つのラウンドが終わった後に、会場全体で一つのグループとなり、全体会議の時間を持ちます（全体会議は、10分～30分程度）。

#### ・ 用意された備品の意味

##### 「トーキング・オブジェクト」

トーキング・オブジェクトは、互いの話を尊重するための道具です。話をする人は、トーキング・オブジェクトを手にする必要があります。誰かがトーキング・オブジェクトを手をしている限り、他の人は、話をする事が出来ません。また、話し手は、自分の話が終わったら、一度トーキング・オブジェクトをテーブルの中央にもどす必要があります。話を聞く人は、トーキング・オブジェクトを持った話者を尊重し、話の意図と意味を理解するために耳を傾けることを求められます。

トーキング・オブジェクトを活用する最大のメリットは、“途中で割り込んで話をする行為を防ぐ”というよりは（もちろん、そうした効果もあります）、“発言のしにくさをなくす”ことにあります。一般的な会話において、話し合いに加わりにくいのは、話の流れを受けた発言が求められるからです。ワールド・カフェをはじめとした対話のプロセスでは、話の流れではなく、むしろ個人の中に湧き上がる心の声を大切にします。会話の主導権を人からトーキング・オブジェクトに移すことによって、次の発言権を得るための牽制を無くし、安心して発言を始められるようになります。

#### （備考）トーキング・オブジェクトとネイティブ・アメリカン

トーキング・オブジェクトの起源は、ネイティブ・アメリカンの風習にあります。

す。彼らは、火を囲んで話し合いをする際に、木の棒や石を置き、話をするものはそれらを手にとってから話をするというルールを持っていました。話をすることは魂を込めて話し、話を聞くものは魂を込めて話を聞くことが求められ、そこから深い対話が生まれていったそうです。ネイティブ・アメリカンに限らず、多くの伝統的な文化の中に、こうした対話のプロセスが存在しています。このことは、対話のプロセスの持つ意味と力について考えさせてくれます。対話のプロセスは、自然と共に人が生きていくために必要な普遍的なものなのかもしれません。

### 「模造紙とカラーペン」

テーブルに置かれた模造紙とカラーペンは、自由に絵を描いたり、アイデアを文字にしたり、またそれぞれの書かれたものをつなげ合わせるなどのメモに使われます。

重要なのは、これは書記や記録ではないということです。企業等で書記や記録に慣れているメンバーとワールド・カフェを行う時には、特にこの点を強調して伝えてください。結論を箇条書きにまとめることに慣れたメンバーが初めて参加する場合、彼らはそれまでの習慣に従って、完璧な書記を行おうとします。ファシリテーターは、模造紙とカラーペンは自由に使われるものだとすることを説明する必要があります。また、個人的なメモに終わらないように、模造紙とカラーペンはテーブルのグループ全体のものであり、書（描）かれる内容はグループ全体に提示される必要があることを説明します（「みんなに見えるように書いてください」「個人的なメモやノートとして手元に書くのではなく、大きく真ん中に書いてみてください」）。

### ・ カフェのエチケット

一般的なカフェに、「禁煙」や「大騒ぎしない」「暴れない」といったエチケットがあるように、ワールド・カフェにもエチケットが存在します。エチケットの重要なポイントは、互いの話を尊重することと、模造紙とペンを自由に使うことです。以下にあげる例は、私が普段使っているエチケットとアニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスによって書かれた『The World Cafe: Shaping Our Futures Through Conversations That Matter (2005)』に挙げられたエチケットの例です。これらの例を参考に、ぜひ、深く創造的な対話が生まれるためのあなたなりのエチケットを考えてみてください。

- 今、ここで“感じたこと・思いついたこと”を大切にしてください
- 言葉の奥にある意味や意図、心の奥に生まれる声に耳を傾けてみてください
- 模造紙にアイデアや思いついたことを描き表してください

（西村 勇也,2009 作成）

1つ目のエチケットは、話し手のエチケットです。そして、2つ目のエチケットは聞き手のエチケットになっています。エチケットの説明をするとき、私がよく行うのは、「話す人、聞く人にそれぞれエチケットがあります。最も大

切な事は「よく聞くこと」です。話し手のエチケットは...聞き手のエチケットは...」と説明し、ただのルールではなく、一連のお願いごととして伝える事です。

- 何が重要かにフォーカスしよう
  - あなたの考えを述べよう
  - 心に感じ、頭に浮かんだことを話そう
  - 理解するためによく聴こう
  - アイディアをつなげよう
  - 洞察と深い質問に、共に耳を澄ませよう
  - 遊んでください！いたずら書きをしてください！絵を描いてください！
- (『The World Cafe: Shaping Our Futures Through Conversations That Matter (2005)』より著者意識)

## B . 質問への対応

これらの説明を終えた後に、参加者に疑問や不安が無いかを確認します。質問は、一方的に打ち切らず、出来る限り丁寧に受けることが重要です。アイデアと創造性がグループ内に伝播するのと同様に、不安や恐れもまた伝播することを忘れてはなりません(もちろん、ワールド・カフェはアイデアと創造性が優先される仕組みを持っています)。

特に、前述の例のように、参加者から全体を代表するような不満・不安の声が出たときには、心を込めた対応が必要です。一方で、中には個人的な感情やエゴによる反発の場合もあるので、それらの違いには注意を向ける必要があります。後者の場合は、全体の前ではなく1対1の話し合いを別途設けるなど、個人的な対応を取る必要があります。それらを見分ける最も簡単な方法は、“他にも同じように感じている人がいないか”を確認することと、ファシリテーター自らが行動を内省し振り返ることです。分からない場合は、場(参加者)に聞いてみましょう。

## C . 問いの提示

全体の概要が伝わったら、最後に問いを提示します。問いは、前述のように事前に準備したものを中心に当日のコンテキストに合わせて調整できると望ましいです(ただし、ファシリテーターが初心者で慣れないうちは、事前の準備にたっぷりとした時間をかけ、他のメンバーとの対話によって準備したものを使う方が良いでしょう)。

問いの役割は、“対話の扉”です。ファシリテーターは、参加者に対して、対話の内容が問いに対して常に立ち戻る必要はなく、その場に現れているものを優先すべきであることを伝える必要があります。つまり、問いに対して答えを出すことが目的ではないことを明確に伝える必要があります。問いは、あくまでも参加者から生まれる知恵とアイデアの創造の泉の源に過ぎません。特に、問いはファシリテーター自身が(おそらく多大な)労力をかけて生み出したものであるため、ファシリテーター自身が捉われることになりがちです。ファシ

リテーターは、事前準備で考えた“目的”を忘れることなく、参加者に貢献するために問いを提示する必要があります。

#### **D．ラウンドチェンジ（グループ替え）**

1ラウンド目の時間が終われば、参加者の話を止めて（効果的な話の止め方については、後述を参照）、グループ替えの方法と意味について説明します。ワールド・カフェのグループ替えは、1人がテーブルに残り、残りの3 - 4名がバラバラに新しいテーブルに移動するという形を取ります。移動の方法を伝えた後に、テーブルに残る参加者と移動する参加者それぞれの役割を説明します。役割の説明が終わり、疑問が無いことを確認した後に、参加者に移動を促します。

##### **・ 3ラウンド目について**

2ラウンド目の時間が終われば、同様に参加者の話を止め、グループ替えを行います。この時、テーブルに残るホストは、前回と同じ参加者でも良いですし、違う参加者でも良いです。また、移動する参加者も前回のテーブルに戻っても、新しいテーブルに移動してもかまいません。それらは、各参加者の意思に任せられるべきです。

また、3ラウンド目で新しい問いを提示することもしばしば行われます（もちろん、2ラウンド目で新しい問いを提示することもあります）。新しい問いの提示は、参加者に新しい対話の扉を提供し、更なる深い探求へと導いてくれるでしょう。一方で、新しい問いを提示する場合、2ラウンド目を終えた時点でのコンテキストを考慮する必要があります。事前の準備に促われて、コンテキストにそぐわない新たな問いを提示することは、逆に2ラウンド目までに深めてきた探求を放棄することになります。探求を深める新たな問いは、既にテーブルから生まれているかもしれないことを忘れないでください。

##### **・ テーブルに残る人の役割と移動する人の役割**

テーブルに残った参加者は、ホスト（ないし、テーブルホスト）と呼ばれる役割を持ちます。ホストの役割は、新たにやって来る参加者をテーブルの会話に迎え入れることです。新たなラウンドの始まりに、ホストは他のメンバーに前回のラウンドでどのような話し合いが行われたのかを紹介します。この際、ホストは前回のラウンドの話し合いを正確かつ詳細に紹介する必要はなく、ホストの印象に残っているものや模造紙に書かれているキーワードの紹介で十分です。このことをぜひホストに伝えてあげてください。

一方、移動する参加者の役割は、前回のラウンドで参加していたテーブルから知恵とアイデアを運ぶことです。移動した参加者は、ホストの紹介に続いてそれぞれの前回のラウンドのテーブルで生まれた知恵とアイデアを紹介します。テーブルを超えて知恵とアイデアが紹介されることで、花から花へと移動する蝶やハチが花粉を運ぶように、創造性の他花受粉が行われるのです。

##### **・ 参加者の話を非強制的に止める方法 —自己決定的な会話の止め方—**

参加者にプレッシャーや強制力を感じさせずに、話を止める方法はいくつかあります。一つは、事前に「ファシリテーターが手を上げ、そのことに気づいた人は話をやめて手を上げることをお願いする方法です（「帽子をかぶってもらう」「旗を立ててもらう」なども同様）。この方法は、視覚によって参加者にメッセージを伝えるため、より受動的な伝わり方をします。また、人数や会場の広さに関係なく伝えることが出来るというメリットもあります。「静かに響く音」で合図をすることも有効です。ただし、この場合は、会場全体にしつかりと聞こえる必要があります。参加者が最もプレッシャーを感じるのは、話し合いにかぶせられるようにして話を静止されることです（「話をやめてください！」「時間です！」という大きな声や、強い警告音のアラームが鳴り響く等）。そうした方法は、参加者に対してホスピタリティと矛盾する感覚を与えます。ファシリテーターの役割は、ワールド・カフェの精神を体現することです。時には、こうしたちょっとした工夫も、場の質を高めるために貢献してくれることを覚えておいてください。

#### ・ テーブル移動の持つ役割 —対話を深めるテーブル移動—

ラウンドチェンジで行われるテーブルの移動には、創造性の他花受粉の他に、個人とアイデアを切り離すことという効果があります。このことは、“対話”の成立に大きな貢献をしてくれます。それは、それぞれのアイデアが“中立”になるということです。アイデアは生まれた時点（語られた時点）では、語り手とセットで存在します。よく言われるように、多くの話し合いでは、“何が語られたかよりも、誰が語ったか”が重視されます。例えば、テーブルに権威者、権力者が座っていた場合、その人の発言は内容に関わらず重視されるかもしれません。また、ネガティブなイメージの権力に限らず、周囲から尊敬される人や、精神的な高尚さを感じさせる人なども同様の力を持っています。この問題は、テーマと問いの設定で回避できますが、時には避けては通れないこともあります。

対話が成立するには Suspension（仮定、思い込み、固定観念の留保）が重要な役割を担っています。テーブルを移動することで、テーブルに残ったアイデアは個人から切り離され、また、テーブルのアイデアとして紹介される話も個人から切り離されます。このことによって、自然と意見の Suspension が行われるのです。このようにワールド・カフェには、対話の初心者が対話を行うための仕組みが多く内包されています。テーブル移動は、その中でも最も特徴的で効果的なものと言えるでしょう。

#### E . 全体会議（ハーベスト）

3ラウンド目の時間が終われば、ラウンドチェンジと同様に会話を止めましょう。会場が広く、参加者が分散している場合は、テーブルを離れてファシリテーターの周りに集まってもらいます。全体会議で行うことは、受粉した知恵とアイデアの収穫と全体性の獲得です（ハーベスト(harvest)という言葉は、「収穫」という意味を持ちます）。それぞれが個別に3ラウンドを通して得た知恵とアイデアを全体と共有し、各テーブルで行われた話し合いが他のテー

ブルでも行われたことを知るための時間です。それぞれが得た個人の知恵とアイデアが全体の中から現れたことを知ることで、参加者はより勇気づけられ力づけられるでしょう（エンパワメントされる）。勇気と力を得ることは、今後の創造的な行動にもつながります。また、全体会議に現れる発言とそれぞれの得た知恵とアイデアの間につながりを感じることで、各ラウンドで物理的に出会った参加者を越えて、参加者全体とのつながりを得たことを知る事が出来るはずで

以下に具体的な全体会議の方法の一例を挙げます。これらは一つ一つで独立しているわけではなく、下記の「A」を中心に組み合わせて行うこともできます。ワールド・カフェには決まった型はありません。アイデアと組み合わせ次第で、より効果的な全体会議を生み出すことが出来るでしょう。ぜひ、あなた独自の全体会議の方法を考えてください。

#### ・ 全体会議の方法

##### A．3ラウンドを通じて得た感想やアイデアを発言してもらう

参加者が集まった後に、参加者に対して3ラウンドを通じて得た感想やアイデアを尋ねます。発言は、テーブルでの話し合いと同様に1人ずつ行われます。トーキング・オブジェクトや代わりにマイクを置いても良いし、挙手や起立による発言でも構いません。全員の前で話すことは、多くの参加者にとってチャレンジであることを忘れないでください。ファシリテーターは、発言がしやすい雰囲気を作ることが求められます。

##### B．会場全体のテーブルの模造紙を見て回る

参加者が会場全体をキャラバンのように周り、それぞれのテーブルの模造紙を見ることで、会場全体にどのようなアイデアが生まれてきたのかを知ることができます。ある程度見て周ったら、A同様に一箇所に集まって、互いの感想に耳を傾けましょう。

##### C．ポストイットやカードに感想やアイデアを書く

ポストイットやカードに感想やアイデアを書き、一箇所に集めます。参加者は、集まった感想やアイデアを見て周り、お互いの感想やアイデアを知ることが出来ます。また、全体会議に十分な時間が取れない場合、集まったポストイットやカードをファシリテーターが持ち帰り、後日レポートを送付することも有効です。特に、時間が限られている場合や、時間と場所を超えてそれぞれのワールド・カフェをつなぐ時に有効です。

#### ・ ワールド・カフェをより効果的にするために

全体会議の前後や後日にリフレクション（振り返り）の機会を設けることで、ワールド・カフェの力をより効果的に発揮することが出来ます。リフレクションは、学習と成長を促す重要な要素となります。以下に、リフレクションを行



うための一例を挙げます。全てを組み合わせることもできますし、どれか一つを取り上げて行うこともできます。

#### **A．写真・映像によるリフレクション**

ワールド・カフェの様子を開始から終了まで思い出せるような、スライドショーや映像を作成します。当日、もしくは後日、投影される映像を見ながら、各場面でそれぞれが感じていたことを思い出してもらいましょう。わずか、1 - 2時間前のことであっても、多くの人はその時の感覚を忘れていたものです。ワールド・カフェの開始から振り返ることで、ワールド・カフェによって起こった変化を実感することが出来るでしょう。また、その時は思いついていたのに忘れてしまっていた、知恵やアイデアを思い出すことも出来ます。これらを通じて、参加者の学習と成長が促されます。

#### **B．グラフィック・レコード**

グラフィック・レコードは、描画による記録です。グラフィック・レコードには専門のファシリテーターが存在します。グラフィック・レコードの特徴は、対話の内容が有機的に表現されることです。各テーブルで行われた対話が一枚の絵となって表れてきます。参加者は、描かれた絵を通して、全体でどのような対話が行われたかを知ることができます。また、さらにグラフィック・レコードを通して対話を始めることも可能です。原初の頃、洞窟に絵を描くことで互いの情報を交換したように、絵を通じた対話は人間に本来備わった力です。グラフィック・レコードと対話は組み合わせることで飛躍的な相乗効果を生み出すでしょう。グラフィックファシリテーターを頼むことによって、かかる費用が増えるかもしれませんが、それに見合った価値を提供してくれるはずで。もし、身近にグラフィック・レコードを頼める人がいるなら、ぜひ一度検討してみてください。

#### **C．リフレクション・ラウンド**

ワールド・カフェで得られた知恵とアイデアを元に、新たな対話の場を設けます。時期は、当日でも後日でも構いませんが、しっかりとした時間を取ることが求められます。リフレクション・ラウンドは、通常、2時間程度の1サークルによるダイアログによって行われます。リフレクション・ラウンドには、感覚的に得られた知恵とアイデアを、言葉にすることで深めることができるという効果があります。後述のように、対話の場を有機的につなぐことは、小さな力を大きなうねりへと変えていく力を持ちます。リフレクション・ラウンドに限らず、対話の場をいかに有機的につないでいくかが、変化を生み出す対話の場を創るための鍵となってきます。

#### **D．リフレクション・レポート**

前述の、参加者の感想やアイデアをポストイットやカードで集約したものをまとめ、レポートとして後日参加者に送付します。当日の様子が分かる写真などと組み合わせることで、より深いリフレクションができるでしょう。もし、

オンラインの環境があるなら、ビデオなどで記録をとることによって映像の配信と組み合わせることも可能です。また、リフレクション・レポートは、通常のレポートとして当日参加できなかった方や途中で退席した方へのフォローアップとして活用することもできます。もし、次回の開催があるなら、新規の参加者に事前にリフレクション・レポートを渡すことで、情報の共有を行うこともできるでしょう。

一方で、レポートの作成の遅れによって、次回対話の場の開催が遅れるなら本末転倒です。レポートは、必要以上の手間をかけず、早期に配布されることが望ましいです（例えば、オープン・スペース・テクノロジーでは、即日のレポート作成が求められています）。

### E . 次回冒頭でのリフレクション

今回の参加者と同様のメンバーで再度ワールド・カフェを行うなら、冒頭にリフレクションの時間を取ることは、両方のワールド・カフェの効果を高めることとなります。もし、二度目のワールド・カフェが前回と同じ時間を使うことが出来るなら、初めに解説に使った時間を利用して1ラウンド目の前に10 - 15分程度の0ラウンド目を作ることが出来るでしょう。この時、簡単な問いを立てることで、ワールド・カフェの進め方を思い出すことにもつながります（例えば、「前回、どのような話をしましたか」「その後どのような話をしましたか」など）。前回参加できなかった新しい参加者がいる場合、彼らが前回の話し合いの内容を知る機会にもなります。これは、Cと同様に、対話の場を有機的につなぐ一つの例です。

#### ・ 場を有機的につなぐ

ワールド・カフェに限らず、一つの対話のプロセスは他の対話のプロセスと有機的につなげることでより高い効果を発揮します。重要なのは、対話のプロセスが、時間の流れと共にあるという認識を持つことです。時間の流れは、川のように途切れることなく続いている、始まりもなく終わりもないものです。そのため、対話のプロセスも始まりもなく、終わりもありません。ワールド・カフェでコンテキストの探求を行う理由は、対話のプロセスは既に始まっているからです。同様に、終わりが無いことに注目すると、一つの対話の場がプログラムとして終わったとしても、それを次の対話の場につなげることはむしろ自然なことといえるでしょう。

ワールド・カフェとワールド・カフェ、ワールド・カフェとダイアログという例を前述であげていますが、それに限らず、あらゆる対話のプロセスが有機的に繋がることで相乗効果を発揮します。ダイアログ Bar の取り組みで行ってきた対話の場は、ゲストによるストーリーテリングとワールド・カフェの有機的なつながりを意識してデザインされています。単純に2つのプログラム（ストーリーテリングとワールド・カフェ）を時間ごとに区切って行うのではなく、2つのプログラムのコンテキストを繋いでいくことで、場に一つの流れが生まれていきます。そして、流れが生まれることで、限られた時間に限定されず、前後の人生と関わりのあるプロセスを生み出すことが出来るでしょう。参加者

の個人的な人生と関わりの無いところに、実践と行動は生まれません。変化を生み出すためには、プログラムを固定的で限定された時間の中のものと考えず、流れとつながりのあるプロセスをして捉えることが重要です。

### おわりに

本文では、ワールド・カフェの準備と実施の手順について、順を追って示しました。始めに述べたように、ワールド・カフェの特徴は、デザインの自由度にあります。ここに示した型は一つの例として活用してもらいたいですが、それ以上に、ぜひあなたの創造性を反映したデザインに挑戦してもらいたいと思います。創造的なデザインの中に、創造的なプロセスが生まれるはずで、創造性の中には、「新しい」というだけでなく、楽しみと可能性、そして行動と実践が含まれます。一方で、守・破・離という言葉が示すように、型から入ることは、創造的な破と離につながる最善の入り口です。型から入り、型を大切にし、そして型に捉われず、疑問や発見を大切にしてほしいと思います。

著者：西村 勇也

作成：2009年8月

改定：2010年2月

連絡先 e-mail：[nishimura@dialog-bar.ne.jp](mailto:nishimura@dialog-bar.ne.jp)

phone：090-8232-7572

ブログ：<http://positivelearning.seesaa.net/>

引用・転載の際は、Credit と連絡先の明記をお願いします。尚、文責は全て西村勇也にあります。

[著者紹介]

西村 勇也(にしむら ゆうや)  
ダイアログ Bar 主宰 / 代表  
大阪大学大学院人間科学研究科修了

大阪大学、大阪大学大学院にて6年間、教育心理学を学び、主に人の内面的な成長のプロセスについての研究を行う。同時に、学生団体でコーチングと心理学を元に学生のキャリア支援、キャンププログラム等の活動に2年間従事。

卒業後、人材開発・組織変革のベンチャー企業でセミナー運営や企業研修のプログラムの開発に携わり、その後、(財)日本生産性本部でメンタルヘルスをテーマに企業の組織診断と、ワールド・カフェをはじめとしたダイアログ(対話)による組織開発プログラムの開発とワークショップの実施に従事する。

同時に、08年4月よりダイアログのプロセスを活用した非営利コミュニティ『ダイアログ Bar』の活動を開始。海外のコミュニティより高い評価を得る。1年間半で19回の「対話の場」を設け、約800人が参加。現在は、「”対話の場”を創り、創造的な社会を実現する」をテーマに活動を展開。ダイアログ、OST、ワールドカフェ、Circle、システム思考などのメソッドを活用したワークショッププログラムの開発など多数実施。対話の場を創るためのファシリテーションとプロセスデザインに取り組む。

2009年12月より、Art of Hosting の招聘プロジェクトを運営中。

Art of Hosting : <http://www.artofhosting.org/home/>